

16

花供養 享和三年

底本 弘前図書館
校異 綿屋文庫

花供養

(題簽・表紙)

(表紙見返し)

花鳥風月の興何れか勝りつ何れか劣れりとせん。されど心もうきたつ物は春の気色にこそあめれ、と古人もいひ置けるぞ。実まこと東山芭蕉堂の花供養は、しるも知らぬも車馬を連ね筆紙やとひて、数／＼の巻も短冊も文臺に

序一才

満盈盈たるを例のこと梓にのぼされたり。予がみじかき才いで其是に筆
とる事罪恐しけれど、好る道のゆるしをひたすら念じかへして祖翁の像
前に頓首百拝す。

享和三のとしやよひなかばの日

西湖素人誌

序一ウ

やまかげやさくらみだるゝうすあかり

巢になくとりもはるのよごゝろ

みづぬるむたらひのとじるすでにでゝ

はらりとおつるのきのさしかや

ふたつみつようじはなしてもどるなり

かはのせばさにさほもまはらぬ

ぐそくきて月見るかほのはぎすゝき

ふいてはやすむもりのあきかぜ

葦笠

蒼虬

五来

百池

田禾

馬印

古塘

月峰

ほんずきはしばらくとれぬすしのうを

白子のまちのたちいへをかふ

ひとしきりかさもさゝれぬざんざぶり

かさねてわたすはこのさかづき

くろかみにほそき菖蒲をひきむすび

あはれさまじるよもぎふのこひ

さしかゝるあさひにとびのなきかけて

としとりものにしまの船待

ひきまはす屏風におひのめをさまし

馬蓼

阿年

蘆涯

在貫

春峨

乙道

岱李

銀橋

百磨

あきあともなき根来同心

月花にしそまくつちをほりかへし

けさはかすまぬ枌嶺のかね

しきかへしたゝみのうへもはるくれて

よごれてとゞく庄内のふみ

てのひらにとればあられのきゆるなり

まきのこかげにきみがかくれて

うつりがのよひはすぎゆくこさかづき

うみのけしきをまたみせにやる

青峨

八仙

玉桐

喜鶴

梅笛

驪彭

玉藻

可翠

其白

文覚はひぎをたゝきてわらはるゝ

ぶらりとさがるゆふぐれの蜘蛛

うのはなのさいてしまへばあつうなり

ゆきもどりもやすむ奈良坂

あたらしき位牌にひるも火をともし

こたるのさけのしつ／＼ともる

年中の生活あまるやまのくさ

まつりのうしをあらふうすぎり

しらなみのうへによふかき月のかげ

一居

其刻

寄鳥

其如

柏翠

玉洋

布雪

千代道

鳥幽

御前のあきをいふてはなかむ

たきものゝうすきにほひをかきさがし

なにちがひてもふえはかへさぬ

右一順下略

のぼる

烏頂

漁水

見てゐればめにしむものよやまざくら

みにうけてながむるはなの日かずかな

ふつか見てかなしうなりぬ山ざくら

おのづからかぜもつはなのはやしかな

筑後久留米

文角

羨平

双鳥

修然

(三才)

山ざくらあすのあはれをさきにけり
 はなにかぜさればみをきるおもひなり
 ちるとみしゆめはさめけりはなのかげ
 見あるけばはななきさとはなかりけり
 とりさへもさくらにすゞむ山かづら
 ふきはらふべきちりもなしたまつばき
 やまざくらたが敷柴ぞあたゝまり
 みづにうつるやなぎは人のかゞみかな
 さくはなのうしろそびえてかしひのき

筑前瀬高 為李

、 姪浜 喜水

、 霞梅 忽ほゝ

、 起悦 霞梅

、 瑞芝 起悦

、 筑山鹿 瑞芝

、 飯塚 可都美

、 如璞 可都美

、 瑞水 如璞

岩棚やさくらのうへにさくらふる

けふはけふのながめありけり山ざくら

よにいりてわがさくらとはなりにけり

にじかゝるゆふやまざくらしづかなり

ゆふづきやさくらかざして人とほる

やまかげやひときのさくらはるたける

ちるやはななかれしからむ木曾のふぢ

しばのとにふきこむはるのふゞきかな

はなのゆふべたがつまごとぞ嗟峨のおく

、

、

、

、

、

、

、

、

、

時習

芳笠

桃荷

春蘆

梅江

梅枝

輝白

雪香

知井

まくこえるをんなのこゑやさくらがり
 きくもさくら見るもさくらのうきゝかな
 ほの見えよなはしろみづのあまのがは
 みをつくしまてばふかれてゆくつばめ
 はたうちやおなじことしてひもすがら
 かけまはるきゞすのこゑやあさぼらけ
 ねこのこひとなりさびしきつきよかな
 さきみつるはなにあらしのかゝりけり
 おほかたのはるをまかするやなぎかな

、 壱岐
 、 肥平戸
 、 長崎
 、 楚艾
 、 春阿
 、 詩笛
 、 梅路
 、 文塘
 、 其冠
 、 李薰
 、 吾友
 、 分風

水にちるひとへざくらのかろげなり
 よしやわれくるればくれてはなのやど
 いほのとをたゞくやはなのあさぼらけ
 おもひねのあかつきざくら見たりけり
 人のきもほどけそめけりいとやなぎ
 はざくらのなかにひときのはなみかな
 あげぼのとおもふてでたりはなのくも
 つきのさくらくもふくほどのかぜはあり
 つきさしてひとえざくらとみへぬなり

備後福山

杜陵

、

羽白

、

楽水

備中倉敷

里芳

、

佳文

、

川布

、

里桂

、寄人改

箕俣

在倉敷

居然

山かげや屋のむねこゆるちりつばき
 おくわけて見ればきもあるやなぎかな
 てふるひておひのつきゝぞおぼつかな
 あかつきのあめはあとなりはつぎくら
 やまざくらこくちはひばりきしのこゑ
 ちるはなのひまなく見ゆれ山ざくら
 きしのはなちるとものこすみづのおも
 つきとわれとふたりになりぬゆふざくら
 ひとつ屋のやねまではなと見ゆるかな

備岡山	幽雅
安藝北方	可友
播磨姫路	全 寸草
、	頼木
、	栗堂
、明石	東貞
、	桃下
播磨	五草

あまが屋のあいにあれどもやなぎのき
はなのやまかねはよにいるばかりなり
うぐひすにたかげ見ゆるつきよかな
まきのとほくもらぬものをはるのつき
ゆくはるのかたみははなのひまげなり
まつたくやつごもりころのよるのはな
よのなかはうめにはじまる夫婦かな
おほたけのしづくとなりぬはるのゆき
あけぼのゝひうらがたけやはなのくも

兵庫

、

、

、

浪花

大和

、桜渡

、柳渡

池田

秋湖

五調

呉来

桐栖

奇洩

子来

河翠

可州

瓜坊

たちめぐり／＼つきのうめがもと
 はなになる日やむらぐものこぼれあめ
 からさきははるかぜを見るところなれ
 よのなかのさくらはちりてふぢのはな
 みやまへやふじゆうははなに見えざりし
 しばのひのたゞきえやすしもゝのはな
 はら／＼にはたうちかすむひよりかな
 もるひとにとがめられうぞゆふざくら
 のゝみやを見るまさくらにわかれけり

浪花

里山

、 鷺雪

全

全

買風

、 秀里

讚岐姫濱 桃里

阿波 春峨

淡路 青岐

おしあふてそばへもよれぬさくらかな
さきそめてひゞにくれけりあらし山
よざくらやとふかとぎうりはいて見る
どふ見てもまつにかげなしおぼる月
ゆら／＼とはなにつきよの女中連
はるのつきたゞひつそりと水のゆく
たちあがり／＼つゝかへるかり
ゆふがらすねつかぬはなのはやしかな
ろふざきやうめはわかばのあさげしき

河内獨葉 一笑
、舟橋 可卜
丹波梶原 慶々
、野村 古遊
、中山 清茂
、国領 寛枝
、大山 武陵
但馬船谷 五荅
因幡 大蕪

やぶいりや奈良さかこえてたちわかれ
やまざくらこのさくらまであゆみけり
ありあけのけしきなりけりはなのくも
くれきらでつきのさしけりはなのやま
あめのはなちるにはしなもなかりけり
よざくらやややへもひとへもひとごゝろ
ひとつきをひとつきばかりはなぐもり
かいだうや人ゆるすにはにさきあまる
月おぼろやまにあひにかよふとなみかな

、
かゞ金沢
大嘯
我々
素羽
階涼
蘭阜
、
暮柳舎
車大
、
石叢
、
兔文
、
高杉
自明

をかへ出てかりのせを見るなごりかな
ならさかやひとのなかなるきしのこゑ
ふつかちるにさくらなれどもなかりけり
くるゝときこゝろのこらずはるのくさ
くずうおのあさせにとぶやはなふゞき
きて見ればさくらのなかのさくらかな
めさきよりふりかゝりけりはるのあめ
うえこみによのきのえだもさくらかな
さむきことがてんでねたりたのかはづ

、金沢

蘭史

、三京

嵐堂

、友樹

文溪

、卓丈

乙彦

、寄鳥

嘴青

、

、

、

、

(九才)

よをこめてさむかぜちかしきじのこゑ
すえかへるけしきは見えずゆふひばり
しらなみはうらのはななりむらつばめ
よのさくらそれほどやみのひろきかな
うぐひすのこゑおろかなるさくらかな
みちのべのやなぎにかゝるはるのみづ
はるのゆきいへにのこしてはたけうち
やまぶきのさいていばらをはなれけり
まつのはのひとしづくよりはるのみづ

金沢

赫之

、

魯童

、

九江

、

枝川

、

六明

、

固来

、

蒼芝

、

甘谷

越前丸岡

甫立

たびびとのおりてわするゝさくらかな
はなのくもなぐれてうみのひかげかな
ひとのきてわれも見に出るやなぎかな
あしびきのやまよりあくるさくらかな
よかんとみえぬやなぎやなにはがた
ゆくはるをおやこしてなくすゞめかな
ひもなかばこゝろゆるまるさくらかな
しらうをに日のうつるこそおもひなれ
よのなかはこれにてすきはなにとり

能登黒崎

加由

、曾良

岸芯

、田星濱

改玉

、

舸路

、

几山

越中富山

嵐丈

、

如岡

、

蓬山

、

乙峰

細臺に海馬啼はるやおきげしき

、黒崎

可積

我すめるこにはにさくらあり。としふれども

いまだはなも見ず、さくときはいかばかりめ

でたきはなにやあらんとおもへば

ものにさへまつまははなとひとのいふ

越滑川

君藝

とし／＼やよはあたらしきはつぎくら

、小林

沙麦

はなのやまこゝろのほかへいる日かな

、魚津

大翼

はなのあさにまへとゞくひとのかげ

、

魯山

さかりなるはなにもたゞく木魚かな

、

芸肇

しのびあひてもどるたもとにちるさくら

、

杏邑

(一一ウ)

たきのみづかるうおぼえてさくらかな
松守のならばてあけるさくらかな

ひとぎとのはなれかげんをはな見かな
ありあけのかねうつくしきさくらかな
かみかぎのそといくさとのはなつらき
つきのもれいづるがごとしゆふざくら
おしろいはこかげにいやしやまざくら
くれてまうはなをたちのくうらみかな
はなのおくつめたきみづのながれけり

、

、

、

越荒井

、

、山谷

、

、小国

、目来田

文景

桃屋

周臺

如蘭

梅旭

朝雨

松駐

波静

里竹

あめかぜをしのぐいろありはつぎくら
あをやぎのかたよりはるのひぐれけり
はるのつきゑひしをんなのとはでかな
くるゝ日もあさ日もをしきさくらかな
山ざくらさいて三日のつきよかな
よきみづやをけのつゝじのはなたもち
とほめにももゝよりたかきいへはなし
ちるはなやみづにはしふるみやこどり
ほねしばのなかよりでたりはるのくさ

、 柏崎

平水

、

其貞

、

玉宇

、 今町

其徑

信濃下和田寛之

、 上田

半古

、

曾茂

、

麦二

、

三机

うぐひすのねもごろになくゆふ日かな
たいうりのひより／＼とさくらかな
のせりのはてはきにけりやまざくら
ゆくかりやうしろにはなをもちながら
ひざくづすはな見わりなきむしろかな
このころのつきよにあはではるのゆき
このころいくつもあれよはなにとり
かりたつてさびしきはるのあさひかな
はるのつき山家のつきとは見えぬなり

、飯田

何頼

、

李三

、

文和

、

橘良

、

蘭二

、塩名田

文花

、在信濃虫栗

世徳

、伊奈

梅布留

、飯田

蕉雨

(一三才)

あめのはれをつげてきにけりはつぎくら
 そらふかくはなにくもりしよあけかな
 きかばやなはなにみやまのかただより
 あめならでさくらの日よりくもりけり
 いるつきのかげうとからぬさくらかな
 なくかはづ御手洗はさむきよあけがた
 ふるゆきにこゝろをおくなはるのとり
 ふるゆきやとばかりはるのぬかりみち
 なくかはづよはふけにけりいへの角

、惣社
 、
 、
 、
 元惣社
 、藤岡
 武蔵
 東武
 甲府

土虬
 白燕
 梅雪
 清卒
 龜遊
 竹二
 川風
 半夢
 方居

かひかねのはれたつまちやうめのはな
 はるのこくさあるひははなのさくもあり
 あらましにはるのことすむつきよかな
 はなのちる日頓にうまれしかひありや
 わかれんとおもへどはなのゆふべかな
 うすづきはなにくろのうかれどり
 ちるはなにあふぎかゝえて見たりけり
 やまざくらのつねは雑木と見られけり
 はなにくくこゝろはふたつひとつかな

、 奥南部 嵐外
 、 二本松 琴臺
 、 八戸 乙調
 、 文兆 鬼彦
 、 梅眠
 、 来二
 、 常山
 、 朶水

ひともせばよるもさくらはちりにけり
ゆきどけのひもむらさきのみやまかな
はなもりのみにあまりたるつきひかな
つちはしのくづるゝころやはなざかり
ゆふざくらおるもこゝろのあまりなる
よをすでにいづればはなのさかりかな
日／＼にきてあめのひもさくらかな
ふくはらやはなちるまでのほるの宵
けさからの雨間やはなのさきそろひ

三河岡崎 岱呂
相州小田原 春人
遠州原川 可月
久喜が浦 雄之
、 演之
伊勢寺方 里朝
、津古川 理玉
、津 此暑
、 花明

よるはよるのこゝろうつりぬさくらがり
つきよよしさくらがもとのひとのかげ
江のなみにはなあるかぎりうごきけり
まつのまはつきよとなりてちるさくら
はなさかぬきもゆふぐれてなくからす
はなふんできじのなくなりゆふづきよ
めのさめるさくらのもとのあらしかな
かつちるもさかぬもはなのさかりかな
またとなきさむきよにちるさくらかな

、 、 、 、 、 、 、 、 、

蓼花 木槿 蘭啓 彳松 其仙 栗人 竹奥 蘭堂 松峯

らく／＼とはなにねにけりだうのすみ
見るたびにおもしろうなるさくらかな
うめがゝやねるもおきるもといちまい
人のかふいへ見にゆけばうめのはな
わかくさやみづますふねのつけどころ
うぐひすのをりなをりたるしほきかな
それ／＼にはな見のものはな見かな
ゆくはるやしかのせをこすぼけのはな
かぎ見ぐさてふはゆめ見てふけるのか

、前田	朴所
、大塚	鳥翠
、山田	南江
、四日市	眠五
伊勢	市山
、山田	四溪
若州	千好
近江日野	芳林
、	可徳

やまざくらころりとねたるよさりがを
はるのみづまつに日おちてさむげなり
はるのさと奈良にとなりてのどかなり
なはしろやとほくなりたるゆきのやま
きじなくやあけしづかなるうみのうへ
かぜ見えぬひをあらためてはるのかな
みつほどにしづけきつきさくらかな
ともしびのちらりとはなにあらしかな
ありあけのかげにあつまるかはずかな

、 、 、 、 、 、 、

八幡

西湖太田

松蘿

素艶

淇竹

芳之

柏翠

都水

凡旧

寄竹

梅之

(一七才)

はたうちややまがはひとのきもながし

、

二鶴

はつぎくらふつかはつきもなかりけり

素人

ことははるのはやきさとやま

田禾

すゞりひくやどにひばりのなきなりて

圃丈

ぬかみそしるのさめるゆふかぜ

獅丸

しよくのひのちら／＼かゝるかきつばた

百痴

すそのちゞまるかたびらのしは

鸞尾

ねりものゝまたひとならびとほるなり

大花

きすごうり出すこゑぞうつくし
じり／＼ともやはれたるあさの月
をきはそよいでとりわたるそら
むねいたきおもひにあきもせまるらん
うみこえやまをこえてこひする
あしの屋のあるじにさけをすゝめられ
かぶとたゝいていさむあかつき
このごろのかみもほとけもにぎはひて
こて／＼かねをいたすこさいふ

桐川 禾 人 丸 丈 尾 痴 川 花
(一八才)

まきこまをひきならべたるはなごゝろ

五形すみれにゑどのちかよる

はるさめにはるさめしふをおもひたち

ひさしぶりにてをひのとひくる

うはしきにくすりのなべをうちかへし

あけるかとやにとりのはたゝき

きぬ／＼にこつ／＼せいてひとのゆく

なにやらしれぬそでのたきもの

ありがたくごしよのとうじにさけたべて

禾 川 花 尾 痴 丸 丈 禾 人
(一八ウ)

かきなぐるゑにわらひだしけり

ものにつくひるのねずみをおひまはし

けふもちやうすをひきさしておく

はたばこをつりかさねたるつきのあき

つゆにかちけるきくのすてうえ

かき^ウゆふてしまへばむしのなきいだし

ひぎくまれぬもゝひきののり

よどぶねのまほにかたほにゆきちがひ

かすみのそこにめはるおほむぎ

人丸丈尾痴 川花人禾
(二九才)

とし／＼にわかぎのはなのさきそひて
こもりてをしむはるのあけぼの

うめのきもおぼろもよほすぬくみかな
ゆきすぎて見ればつきありゆふざくら
さと／＼のすゑはくもありきじのこゑ
けふもまたきのふのはなにくれにけり
いさりするためとてきしのやなぎかな
やみのはなにほひそれ／＼さだめけり

近江船木

丸 丈

獅丸

鷺尾

桐川

湖夕

素笛

九花

(一九ウ)

もどらんとすればさびしきさくらかな
さくらちるうしろのやまやのこるつき
かねのなる方にはなありゆふづくひ
みのりきててらもありけりはなのやま

花供にまゐりあひて

ありがたき香のにほひやあめのはな
みやまぢやはなをしるしにかげまはり
からすよりよのあけそめてもちどり
うすづきのよゝりさきけりはつぎくら
やどとりてはなさくさとのよひねかな

、 素人

、音羽 田美

、高崎 文山

、 籠山

、大溝 一居

近江海津 不然

、三井寺 千影

、大津 佳綾

、 蓬皐

やまどりのねぐらあらそふさくらかな
あさぐくらしづくするまでしづかなり
くさもえてねこのなきゐるふんどかな
かぜさきにてふとぶまつのはやしかな
うつくしきすがたは見せずきじのこゑ
うぐひすやひとこゑうつすまつのうへ
たきのおとそれとおもはぬさくらかな
やまぶきのちるひまであめのふりにけり
やまびこのはなにかくるゝゆふべかな

、 、 、 、 、 、 、 、

五呼 史明 杜陵 芹溪 嘉陵 推叩 流霞 宇洋 五来
(二〇ウ)

とほやまやはなのあめよりひのくゞる
こゝろなくひきやくはすぎつはつぎくら
けいせいはいさいさうつなぐやなぎかな
はつがすみまたはるしらぬものゝいろ
しらくものかすりがゝるやはつぎくら
くま／＼にかくれぬものやはなすみれ
みづもらふいへのうらまでさくらかな
こまつまでのりほしわたすいそやかな
やぶいりのつきに出てみるのづらかな

、走井

浪花

、

三河新城

洛

烏頂

東阿弥

嘉輔

如竹

百池

乙道

布雪

阿年

岱李

(二一才)

とりなくやさくらのなかのひとついへ
とびすゝめからすもないてはなざかり
はるかぜやいくつもわたるかものかは
はなざかりおへどもとりのおどろかず
ひとむらをにぎやかにするやなぎかな
わがやどもとほくみえたるやなぎかな
くろきうるさとおひきのさくらかな
ふるさとやいへのあはいのすみれぐさ
みづにてのとゞけどたにしをらぬなり

馬蓼

八仙

喜鶴

銀橋

斗久我

梅笛

玉藻

一笑

双南

(二一ウ)

見て居ればしづかにうごくさくらかな
ちりほこりみなしづまりてよるのはな
こゑとほしくものうきよのはなのとり
ぬれかしとくゞつてみるやあさざくら
とかくしてことしもさくらちりにけり
いとゆふやひのおもきよりむすぼるゝ
ゆふばへのよそほひふかきさくらかな
ひのはなのあさひのまへのさくらかな
はなの後のやまよりおつるながれかな

日枝僧

玉桐
亭
驢舟
漢水
秋守
あたふ
林鳩
月峰
古塘
(二二才)

あらしやまにて

をんがくやはなに手をつくあらしやま
さきそめてちるまでをはなのさくらかな
あめになるはしよかはづのやぶになく
やまざくらもとときしみちをわすれけり
おくやまのさくらしづかにちりにけり
はなくやう十ぶんならぬつきもよし
しばやまにふたきともなきさくらかな
たに／＼も正月らしやうめのはな
いとほどなきにもはなもつさくらかな

山崎

青峨 春枝 白人 橘栄 のほる 其成 芦涯 馬印 田禾

からすさへうめにはづれぬにほひかな
かさねぎをやめて見たればはつぎくら
かねのねのひろがるなかやなくひばり
つきをさへたのむけしきやはつぎくら

在貫
土卵
玉洋
蒼虬

京都書林

御幸町錦小路上ル町

勝田喜右衛門

烏丸通下立賣上ル町

勝田善助

梓

(裏表紙見返し)

（裏表紙）